

奈良女子大学留学生によるレポート

わたしの国の女性たち

【レポート応募を呼びかけた経緯】

奈良支部では、今年度の活動の中で、奈良女子大学の「留学生によるスピーチ大会」に参加したり、留学生の皆さんとの交流会ができたかと考えていました。しかし、新型コロナウイルス感染症によって活動が大きく制限されています。

そこで、現在日本在住の留学生の皆さんに、「あなたの国の女性たちの生き方や考え方」を紹介するA4判1枚のレポートを書いてもらうという企画を立てました。

【応募のあったレポート】

呼びかけに応じて、留学生28人からの応募がありました。中国からの留学生が最も多かったですが、出身国は全部で6か国に及んでいました。レポートは日本語が望ましいが英語でも可としました。英語によるレポートは一人だけで、どのレポートもしっかりした日本語で書かれており、それぞれのお国柄がわかる興味深いものでした。

多くの方に読んでいただく機会を持ちたいと考え、奈良支部会員からの意見を踏まえて、紹介するレポートを選びました。

ウェブサイト掲載にあたっては、本人の希望でイニシャル表記の方もあります。

【レポート提出者の出身国】

1：ミャンマー	2：モンゴル	3：韓国
4：ルーマニア	5～7：ベトナム	8～13：中国

私の国の女性の生き方や考え方について紹介

ミャンマー、生活環境学部、住環境学科一回生、WIN LEI SHWE YEE

ミャンマーの女性たちの大部分は前時代的な考えを持っている人が多かったです。ほとんどは両親の管理下にいる女性で、自分で独立したいと思う女性はなかなか少なかったです。そのメリットとしては昔からの文化や習慣などを守ることができるのです。今でも、昔のように男性が働いて女性が家事をするという考えを持っている女性がまだまだ大勢いるのです。母親が女性はいつも丁寧に話し、女性だから、料理できないとだめ、性教育について話すのは恥ずかしいことだと子供たちに教えるのです。

しかし、世界中が男女平等社会へと変化し続けている現在では、ミャンマーでも社会に出て男性たちと一緒に働く優秀な女性の数がどんどん増えています。昔は結婚した後、女性は働くのをやめて家事をするということは習慣のようなことだったんですが、今は結婚した後でも、働き続ける女性が多くなりました。女性のインフルエンサーたちが例として女性一人でどうやって強く生きるのか、自分の価値をどうやって決めるのかについていろいろアドバイスしているため、独立していく女性が増えてきました。

ミャンマーはまだまだ発展途上国であり、国全体の教育レベルもまだまだ低いのです。そのため、地方にいる女性の中で、教育を受けられない女性が大勢います。その人たちの考えは前述べたとおり、前時代的で自分は働かなくてもいい、賢い男性と結婚していい奥さんになればそれで完璧な人生だと思っているのです。もしも、その人たちも教育を受けるチャンスがあつていろいろな知識を得ることができたら、自分の人生を自分のためにだけ生きようになると思います。

それに、ミャンマーの女性というとみんなはアウンサンスーチーさんを思い浮かぶと思います。彼女はミャンマーの女性だけではなく、国民全体に尊敬される優秀な女性です。彼女が国家顧問になってから、ミャンマーの女性たちの生き方や未来は著しく変わったと思います。女性であっても、国全体の人々に尊敬されるような人間になれる、女性であっても、みんなをリードすることができるということを導いてくれたのです。私もいつかスーチーさんのような女性になりたいと思っています。

しかし、どんなに男女平等社会といっても、ミャンマーでは離婚する時、女性はいつも不利であることは今までもあります。離婚した後、周りの人に批判されるのも女性で、法律的でも離婚すると、女性は不利な側にあるということが見られます。そのせいで、離婚したい女性でも、なかなか離婚できず、我慢してそのまま続ける女性が多いです。

私の意見ではミャンマーの女性の生き方は快方に向かっていると思います。まだまだ、前時代的な考え方を頑張って努力せずに生きている女性もいますが、国が発展してみんなが教育を受けられるようになると自然に女の子でも、みんなをリードできるような人材になれると思います。私も自分ができる場面から国のために貢献して、女性たちが自分の人生を正しく自由に生きていけるような社会を作りたいと思っています。

私の国の女性の生き方や考え方

モンゴル・理学部化学生物環境学科 2年 B. B.

私は2016年に来日しました。海外へ行ったことのない、私には日本に行くことは夢のようでした。私の母国モンゴルでは、海外の教育を受け、それを自分たちの国で果たしたい人はたくさんいます。私もその人たちの一人です。私は糖質の研究をする志望動機を持っていた、糖質の研究に優れている日本に行きたいと心の中に望んでいました。日本語学校から、国立大学となる奈良女子大学に進学したのは自分の夢を叶えるはじめの一步ではないかと今考えます。

日本語学校から、日本の社会に慣れようと思ってアルバイトをすることにしました。最初は、「はい」という言葉しか言えなかったが、時間が経つにつれて、徐々に日本語を理解するようになりました。日本語をわかるようになって、テレビ番組をみたり、人の会話を理解できるようになったりしました。そこで、気づいたことは日本の男女差別でした。まだ社会人になっていない私が差別されたことはありません。しかし、新聞の中に「〇〇大学医学部の男性合格者は女性より多い」というような記事を読んだとたんとても不思議に思いました。なぜならば、モンゴルでは、医学大学に合格する学生の7割くらいが女性ですから。モンゴル男性は頭がよくないと言っているわけではありませんが、女性のほうが熱心に試験勉強したか、それとも別の理由かわからないが、女性のほうがたくさん合格します。高等教育を受けるのも女性のほうが多く、仕事に就くのも女性のほうが多いです。

そうですから、高等教育を受けようと決めたモンゴル女性は一生懸命頑張ります。私の知り合いで3歳のお子さんがあるモンゴル女性は、同じ日本語学校に通っていました。「子供に会いたい、でも子供のためにもっと立派な人間になりたい」といったのが印象に残りました。母親ではないが、10歳の弟がいる私には少し共感できることでした。私も弟にとって誇りのお姉さんになりたいから、学校やここでの生活を頑張っています。別の国にきたモンゴル女性は、ただ自分のためではなく、家族全員のため努力します。

夫や子供がいる女性がいれば、18歳から来日する女性もいます。私は、日本語学校を卒業したあと、外国人向けの予備校にも通ってました。そこで19歳のモンゴル女性に会いました。彼女はとても頑張り屋と一緒に勉強などをしていました。彼女のおかげで長い時間の勉強や面接練習などを乗り越えたと思います。そして、予備校を卒業する直前に彼女から「一緒に勉強してくれてありがとう」といった感謝の言葉をきいて感動し、自分からも感謝の気持ちを伝えました。この子と今も仲が良く、互いにいつも助け合います。

このようにモンゴル女性は決心したことには最後まで頑張ります。自分の人生は自分だけのものではないから家族のために努力します。そして、女性は女性の力になるのですから互いを助け合います。このような考え方で日々の生活を後悔なく送っているのではないかと私は考えます。

韓国の女性は変わっていく

韓国・生活環境学部住環境学科・李嘉恩

韓国は古くから男性中心社会が根付いて来られ、女性の社会活動への参加は1900年代以前まであまり許容されなかったと言われる。しかし外来文化を受け入れてから、女性教育の重要性や社会活動への参加、男女平等を求める女性たちが増え、男性中心社会であった社会雰囲気も徐々に男女平等社会に変化してきた。

現在の韓国社会では、男女の教育や政治参加、社会活動参加への機会は等しいけれども、社会内では男女差別を感じる方々も多く、特に新自由主義や経済的不安の社会から完全な男女平等を求める考えが生まれ逆差別を根拠として‘女性嫌悪’や‘フェミニスト嫌悪’などの男性たちの声も上がり、男女平等において様々な論争をしている状況である。また2016年に起きた江南駅の‘通り魔事件’は女性を標的とした殺人事件であり、女性嫌悪や性犯罪の問題は現在も続いている。

韓国で女性の生き方は昔と比べると大きく変わってきたと思う。男女問わず中学校までは義務教育を受け、高校を卒業し大学進学や就職をすることが一般的である。しかし女性は結婚して子供ができたならやむを得ず会社を休まないといけませんが、育児休暇をもらえる会社は一般的ではなく出産と同時に会社を辞めるケースも多くある。そのため今の若い女性たちはキャリアのために結婚や出産をあきらめる傾向があり、これは低出産を招き少子高齢化が深刻化する原因である。

また社会活動をしている女性たちに性的役割を強く求める雰囲気もあり、男女平等社会とはいえ、不利益やセクシュアルハラスメントを受けた経験がある女性たちが多いことも問題である。実際女性検事が自分が受けたセクハラを社会へ告発したり、大学教授からのセクハラをされた学生が告発するなど、これらの告発を「#Me Too」というハッシュタグを付けSNS上に載せて広げる動きが本格化していた。

このように韓国社会では女性の社会参加への制度的な措置は昔と比べ男女の差は減少している一方、出産・育児への制度や支援はまだ十分ではない現状である。また社会内に隠されていた女性に対する悪慣習や固定観念などはまだ存在しており、それらの問題を認識し黙って隠すことなく継続的に社会に向けて発信して変えていこうとしていると思われる。

日本も韓国と同じく昔と比べ、女性の教育や社会参加は積極的になってきたが、現在も女性に対する認識や偏見などは存在していると思う。しかし私が日本で3年間住みながら感じたことは、日本では女性たちがそのような不利益や差別を受けたとき、何も変えようとしなかった。社会だけではなく家庭内でもそのような傾向があり、とても残念な習慣であると感じた。これからの未来には男女問わず性別特徴に合わせた男女平等な社会になっていくためには、隠さず発信することでより多くの人々が同じ認識を持つようにすることが必要ではないかと思う。

家庭の柱－ルーマニアの女性

ルーマニア・奈良女子大学文学部人文社会学科歴史学コース・ Calin Paula

現代のルーマニアの女性の特徴として取り上げられるのは、心強さである。未だに女性が差別される社会の中でも自信を持ち、自分の目標や夢をやり遂げるまで頑張る姿である。その女性がどうやってこのようなイメージを持つようになったのか、考えてみたい。

ルーマニアの女性は昔から、家庭の中での様々な事業に取り組んでいた。料理や子育てなどはもちろん、衣類を縫ったり、夫と共に土いじりしたり、夫の作った壺に柄を塗ったりしていた。さらに、常に大事な宗教的な祝いを意識し、その準備をきちんと行っていた。これくらい活動しており、家族のニーズを満たしていた女性は周りの人からも尊重され、「家庭の柱」だと言われていた。しかし、時代を経ると公的に社会の事業に関わる男に対して、家の中で働く女性が差別の対象になってしまう場面もあった。例えば「男みたいに学校での教育を受けてはいけない」「裁判に関わってはいけない」「夫に知らない取引を行ってはいけない」などと言った決まりもあった。

ただ、強く生きてきた女性は、そのような世界を狭めるルールに従うわけがない。教育を望み、公的発言や社会の中での活動の権利を認められるように立ち上がる女性が沢山いた。例えば、初めて高等教育が認められたソフィア・ナデジュデは学問に力を入れ、女性の差別を批判した文学作品を執筆した他、初めての文芸雑誌の女性リーダーとして活動し、女性の差別を無くすための動きを指導した。また、体操競技において優秀な成績を取得し世界中に有名になったナディア・コマネチも忘れることのできない、代表的なフェミニストである。ナディア・コマネチは努力によって女性でもキャリアの面で大成功できると身を持って示した。

女性は「家庭の柱」と言われていたのは、家の中でしか活動できないからではなく、社会での大事な役割を果たしてきたからである。この事実を常に意識しながら、男をパートナーとして尊敬し、代わりに尊敬してもらえることを期待するのは、現代のルーマニアの女性である。自分の価値を意識しながら頑張ることの重要性を理解した考え方を持っている。

「忘れるべきではない女性の英雄たち」

ベトナム・大学院人間文化総合科学研究科人間科学専攻・NGUYEN THI AN

夏の季節に、ベトナムでは傷兵・烈士の日という大切な記念日がある。1955年から毎年のように7月27日に行っている。今年の傷兵・烈士の日へ向けてベトナムの解放・民族独立に献身した女性たちの姿を招待したいと思う。ベトナムの歴史を遡ると、ベトナムは戦争が多かったことが見える。特に、最近のフランスとアメリカに対する戦いには、女性は重要な役割を果たしたのである。ベトナム革命の女性の英雄と言えば、伝説となったベトナムの東南部にあるダットドー県で生まれたヴォー・ティ・サウ(1933-1952.1.23)のことに言及しなくてはならない。彼女は12歳から兄と一緒に革命活動を手伝い始めた。それから、革命組織間の連絡から、革命組織に食料や物資などの救済、フランス兵を直接に消滅するなどの活躍を遂げた。1950年に市場で手榴弾を使って一群のフランス兵を死傷させて、フランスに逮捕された。刑務所で何回も野蛮に拷問にかけられたが何の情報も口に出さなかったため、死刑の裁断を下された。1952年1月23日に死刑される前に、洗礼式で牧師はサウに「死ぬ前に後悔することがありませんか？」と聞いた。サウは「私の国を略奪する植民と祖国を裏切る雇い兵たちを全員消滅することができないことだけを後悔している」と言い返した。そして、処刑場で「私の目に覆いを掛ける必要ない。最後の秒まで愛している国の光景を見たい。そして、あなたの銃身を真っ直ぐに見詰める勇気を持っている。」と胸を張って述べた。その後、ベトナムの国民的英雄と称えられた。若い年で犠牲となったため、ベトナム国民の人々は親しみを込めて「サウ姉さん」と呼んでいる。また、アメリカとの戦争において女性のイメージに言及すれば、「髪の毛の長い軍団」のイメージが思い浮かぶ人が多いと思う。「髪の毛の長い軍団」はベトナム南部の女性たちのアメリカに対する闘争運動の総称である。1960年から「ドンコイ運動」の中から発して、徐々に政治・兵運・武装という3つ展開方向で活動を柔軟的に運用した。当時の「髪の毛の長い軍団」に参加した女性たちはそれまで素朴な農民であったが、勇気で頭の良くて忠誠心のある女性たちである。敵に髪の毛を切る手段から、逮捕・監禁、野蛮な拷問までの手段が使われても、彼女たちは革命の基地や仲間の情報を一切与えなかった。武装闘争で活力に満ちた独創的かつ巧妙な戦い方を運用していたと言われている。国際女性デーの1965年3月8日に、ベトナムの初代大統領であるホーチミンは南部の女性の功績や貢献を高く評価し、8文字「勇壯・不屈・忠実・有能」を女性に贈呈したのである。それに加えて、傷兵・烈士の日を迎えて「ベトナム英雄の母」の殊恩について話したいと思う。「ベトナム英雄の母」はベトナムの民族解放・国家保護の事業に献身して戦争で犠牲となった夫と子供のいる母たちのことを呼ぶ名称である。「ベトナム英雄の母」の中で、戦争の時代にある母たちの特別な代表となる Me Thu という女性がいた。ベトナム語で Me は母で、Thu は彼女の名前である。戦争によって犠牲となった戦士の数が多かったことは、それほど夫や子供などを失った苦しみを経験した母が多いという意味がある。Me Thu はフランスとアメリカとの戦争で子供・孫を含んで14人を次々と戦場へ送ったが、12人は戦場で犠牲となって戻れなかったのである。うちに、9人は息子で、一人は娘の夫で、残りの二人は娘の子であった。さらに、Me Thu の家で秘密の地下トンネルが5つあって、数百人の幹部、軍人、ゲリラ隊を世話して守ったのである。2015年に Me Thu の出身地であるクアンナム省で、大きな貢献・犠牲に対する感謝を込めた記念像が完成された。ベトナムの伝統的な女性は平和な時期なら、懸命に働く寛容で優しい女性であり、戦争のある困難な状況にあるなら、不屈で勇気のある女性であると考えられる。現在のベトナムの社会は様々変化があるため、女性に対する観念も変わっていくかもしれないが、私自身はこれからも彼女たちに誇りをもって彼女たちの美德を身に付けたいと思っている。

伝統文化的美德を受け継いでいるベトナム現代女性

ベトナム・大学院人間文化総合科学研究科人文社会学専攻・LE QUYNH CHI

どの国においても女性は時代によって生き方や考え方が違う。しかし、国々の女性たちのアイデンティティは、世代を超えて受け継がれている伝統的な美德ということに現れると考える。歴史の流れの上では、ベトナムの女性はいつも重要な役割を果たしてきた。

昔のベトナム人女性は、勇敢、忠実、智謀及び愛想の良いという人であると言われている。戦争中、彼女らは侵略軍と戦いながら、子どもを育て、国の発展に貢献した生産労働をしていた。国の戦争の辛さや貧困によって、ベトナム女性は自分の家族並びに自分の国をあくまでも守るために侵略軍と必死で戦おうと決意した強い女性戦士に訓練された。当時、ベトナム女性あるいは母親たちの最大の夢は、国が平和となり、そして子供たちと夫が戦いから無事に戻ってくることだけであった。

戦争後平和時代に入り、外部の敵が無くなり、ベトナム人女性にとって家族が一番大切なものとなった。彼女らにとって、家族はすべてのことで、家族の繁栄と愛くるしい子供たちの幸福のために自分の望みや楽しみを犠牲にした。彼女らの夢と生活目標のほとんどは、良い夫と結婚して子供を社会に貢献できる人に育てることであった。したがって、当時自分より家族を大切にすることは当たり前であったが、自分の愛すべき考えはベトナムの女性には存在しなかった。

ベトナム並びに世界の急速な発展に伴い、新たな環境に適応するために現代のベトナム女性自身も変わる必要がある。現在のベトナム女性は、生活の中で男性に依存せずもっとより自信と自主性を持つようになって、母親や祖母から学んだ家族の慈しむ心や譲る心などの美德を今尚保持している。自分自身のことも、家族のことも、両方とも愛する方法を学ぶようになった。女性の社会進出と男女平等の動きによって、現在のベトナム女性は、平凡な労働者だけでなく、仕事で高い成果を達成したリーダーやパイオニアなどになることも多くある。ベトナム女性の生きがいは、単なる家族のことばかりでなく、仕事で成功し、世界をリードすることであると思う。

現代のベトナム女性である私は、勉学や仕事、生活の中で、自分の価値を探し出して肯定するため高い目標を設定し、それを達成できるように精一杯頑張っている。さらに、自分の周りの大切な人たちをこころから愛して、彼らの存在にいつも感謝し、自分自身、家族、そして自分の愛する人々の幸福を望んでいる。時間の経過とともにたとえライフスタイルがどのように変化しても、ベトナム女性の素敵な伝統文化的美德を継承しようという心がかけています。

新型コロナウイルスパンデミック下のベトナムの女性たち

ベトナム・文学部・VU THUY LINH

現在世界で恐れられている新型コロナウイルスが蔓延する状況で、ベトナムは医療や経済など様々な分野で影響を避けられるわけがない。しかしながら、ベトナム保健省の発表によると、5月18日までに、当時では32日間連続で国内の感染がなく、陽性事例と判断されたのは、5月15日午前9時（当時時間）時点で計312件であり、死亡者は発生していないということである。この良い結果は国民の努力によるものであるが、そのうち、女性たちの貢献は否定できない。本レポートでは、コロナというグローバルのパンデミック下のベトナムの女性たちについて協議したいことを通し、従来のベトナムの女性たちの「動き」を通し、ベトナムの女性の真の姿を日本に紹介してきたいと思う。

まず、「ベトナム英雄の母」という言葉を説明させていただく。この言葉は、フランス・アメリカとのベトナムの戦争で生まれ、戦争での偉大な貢献をし、また犠牲を払った女性を示す。この犠牲は青春や財産だけではなく、家族を失うということでもさえる。戦争のせいで亡くなった子供たちがいるすべての母親は、「ベトナム英雄の母」という称号を頂いている。最近のテレビでのニュースによると、ベトナム英雄の母のゴ・ティ・クウィットさんは今年97歳になったとはいえ、自分でマスクを作って、配ったということである。戦争で夫も息子も亡くなったゴさんが、国家に生涯貢献しようという望みのもと、右の目が見えずとも、毎日数十のマスクを作っていることは、人々を感心させてきた。ゴさんの例だけでなく、ベトナム女性組合は各地方の委員会と協力しており、コロナの感染拡大を防ぐだけではなく、コロナのせいで影響を受けた人々に援助している。具体的には、現金、食糧、必需品の寄付を呼びかけ、貧者とコロナによる失業者にそれらを配布している。ゴさんのようにマスクを作ってくれる女性は多くいる。また、他のベトナム英雄の母は、現金だのお米だの、多くないものの、自分なりに寄付している。それに従って、全国ではたくさんの「お米のATM」が築かれてきた。食料が十分にある人は「お米のATM」までお米を届け、困っている人はそれを無料で受け取ることができる。その団結の精神はいいことなのではないかと思っている。

ベトナムでは、他のアジア諸国のように、封建のなごりのため、女性より男性のほうが社会地位が高いのである。その上、昔から中華の孔子の道を受け取った各世代のベトナム人は、女性軽視の思想を持って育ってきた。国が統一されて以来、男尊女卑の思想がだんだん除去されてきたが、田舎の生活で、この旧慣はまだまだ存在している。例えば、息子がいない人は卑しめられる場合もすくなくない。しかし、ベトナムの女性たちは社会における地位を確定すべく不断の努力をしている。戦中であろうと平和であろうと、女性たちはさまざま分野で活躍しており、国家にうんと貢献している。特にコロナパンデミックの現在、全国の女性たちは自分を守ることはおろか、たくさんの人々を助けてきた。

奈良女子大学は私が自由に自分を進歩させるための理想な環境であると考えている。留学生として、ベトナムの女性のイメージを持ち、両国の架け橋になることを常に意識している。おとなしく Aodai を着るイメージだけではなく、潜むパワーの美しさを持っているベトナムの女性の真の姿も広めたいと思う。

中国の都市や農村地域における女性の生き方や考え方について

出身国 中国 奈良女子大学 人間総合科学研究科 人文社会学・社会情報コース 趙定

中国南部の小さな村で生まれ、小さな都市で育った私は、毎年も家族と一緒に村に帰り、そこにいる親戚たちと会う。私たちの根が村にあるよと母親によく言われて、年を取ったらまた田舎に帰り、のんびりと老後生活を送ろうと母親が考えている。父親の姉妹も母親の姉妹も村で住んでいて、たまに用事で寄ってきて、旬の野菜か果物を持って来る。おばたちの娘たちは村で育ち、年齢の差が小さいので、幼い頃の夏休みに彼女たちと一緒に遊んだり家事をしたりしていた。おばたちは50代と60代が多く、従姉妹たちは20代が多い。これを背景に、農村に住んでいるおばや従姉妹と都市に住んでいるおばや従姉妹の生き方や考え方をライフステージの順番で述べる。

〔結婚と出産〕1980年代の中国では恋愛結婚でなく、まだお見合い結婚の時代だった。お見合いを通して両親と一緒に結婚相手を選定することであった。両親の承諾をもらわないと相手のことが好きだとしても結婚は難しい。親の意思に反すると親不孝とみなされる考え方があるためだった。それは今の中国の親子関係の中でも影響を及ぼしている。

その時、紹介人は「その子は大工をやって、けっこう儲けるから、彼に嫁いだら苦労しなくてもええよ。しかも彼の家が近いよ。」と紹介し、おばは恥かなくて直接に「はい」といえなかった。おばは結婚し長男を産んだ。一人っ子政策の背景の下で、二人目の子を産むと罰金されてしまうと知っていたが、おばと家族は子どもが多ければ多いほどという考えをもって、三人の子どもを産んだ。

農村育ちの従姉妹たちは基本近所の男性とお見合い結婚をした。希望の子どもの数は二人だが、二人でも女の子でしたら罰金されても三人目を産むことにした。どうしても男の子が欲しいからだ。

それと反対し、国家部門での仕事を持つおばは、仕事を無くさないように、一人だけ産んだ。唯一の子どもは女の子であったため、多く親戚がため息をついた。その女の子は現在30代で、大学のクラスメイトと恋愛結婚し実家に遠いところに行った。20代の私でも、母親に旦那を探すなら同じ町の人の方がいいとアドバイスされた。

〔育児と仕事〕農村のおばたちは子どもの学業を重視しているというより、どうせ女の子は結婚するから中卒か高卒でもいいと考えていた。男の子だったら成績が良くなくても大専（三年制大学）に行かせる。都市のおばは娘を四年制大学に進学してほしかった。

農村出身の従姉妹は旦那さんは一緒に出稼ぎに行くと、子どもを姑に任すことが多い。姑が孫の世話をする義務を持つと考えられている。しかし、共働き家庭の子どもは農村留守児童になる。従姉妹の多くは、子どもが留守児童にならないように、姑を都市に連れていく。賃貸マンションで一緒に暮らすことにする。仕事と育児の両立は、姑か母のサポートがあってこそ成り立ったものだ。都市育ちの従姉妹も一人を産んでおばのサポートをもらったが、近年、夫の収入が上がって、彼女は仕事しなくても家計ができるため、専任主婦になった。しかし彼女は自分も一人っ子で、両親を世話をするのはもう大変で、将来一人っ子ばかりで、一人っ子同士が結婚したら、二人でお年寄り四人の世話が大変なコードだと考え、もう一人を産もうとしている。

〔ケア〕祖母の最後は、二ヶ月くらい横になっていた。祖母は太ももの骨折で、歩けなくなった。田舎の家で娘と嫁は交替でケアをしていた。おむつの交換、体の清潔保持、服替えなどをしていた。「かつてうちの子の世話をしてくれなかったのに、なんであたしがケアをしなきゃ。」と母は文句をつぶやいた。でも母も、「あたし年金あるから大丈夫。動けなくなったら、あんた兄弟三人がお金を足して介護士を雇用してもええ。」と言った。

中国の女性の生き方の変化について

中国 大学院人間文化総合科学研究科 博士前期課程 住環境学専攻 徐后萍

中国では、時代の発展、社会の進歩につれ、現在、女性の生き方は大きな変化があった。これから、いくつかの主要な変化を紹介する。

1. 消費観念及び方式の変化

消費観念の変化につれて、女性は消費過程で食品や服装などの伝統的な消費品に関心を持たなくなり、健康と美しさを重視するようになった。例えば、アクセサリや化粧品などの伝統的なもの以外にも、フィットネスクラブや美容センターは女性消費者がよく訪れる場所になっている。近年、旅行、レジャーなどの健康消費も女性消費者に人気がある。そして、以前は、多くの女性が広告の影響を受けていたので、買い物をする時、ブランドを重視していたが、今の女性は個性を重視し、ブランドを求めず、自分に似合っていればいい。

また、消費方式について、中国の経済の急速な発展とキャッシュレスの普及に伴い、便利さと安いため、中国の女性の消費方式はだんだんスーパーやショッピングセンターなどでのショッピングからネットショッピングに変わった。調査結果によると、女性消費者の8割近くがネットショッピングに夢中になっているようである。

2. 仕事と家庭に対する考え方の変化

経済発展と生活水準の向上に伴い、女性の職業観は転換が発生し、だんだん多くの女性は職場へ進出するようになった。しかし、女性が社会の中でキャラクターの特殊性が決定した女性の価値は仕事の中で実現するのほかに、家庭の責任を負担する必要がある。例えば、結婚、出産、子どもの教育と育成、親の介護など。そこで、女性の発展はもっと複雑さと矛盾性を重ね、女性は、仕事と家庭の二重圧力がある。

そのため、以前はこのような圧力を解消するために、女性が自分の仕事を放棄して専業主婦になることが多かった。しかし、今は仕事と家庭の両立を求める女性が増えているから、専業主婦は少なくなった。家庭と仕事を両立させるためには、女性は専業主婦としてより大きな圧力を抱え込まなければならないが、女性の経済独立と人格独立の面では確かに堅実な一歩を踏み出したに違いない。

3. 結婚観の変化

女性解放運動の百年余りの発展過程で、男女平等の今日で、中国の女性の結婚観は天地を覆すほどの変化を生んだ。

まず、自由恋愛という観念を形成した。中国では、数千年にわたって伝統的な結婚観は完全に親が決められたもので、女性はこれに対して全く自主権を持っていない。今では、この伝統的な結婚観はすっかり変わった。ほとんどの女性は恋愛の相手や結婚するかどうかを自由に決められるようになった。また、子供は父親の姓に従う観念が変わった。中国は何千年も封建社会なので、子供が父親の姓に従うのは当然のことである。しかし、時代の進歩につれ、子供は父親の姓に従う伝統が変わり、多くの家庭の子供は母親の姓に従うようになった。これも側面から女性の地位の向上を示している。そして、結婚して子供を生む観念も更新している。昔は結婚して子供を生むという観念が根強かったが、現在、体形を保つや青春を留めるなどの理由で、多くの女性は結婚して子供を産まないことを選んでいる。結婚しない女性も増えている。何と云っても、今の女性は家庭や子供に縛られたくなく、自分のために生きたいという気持ちが表れている。

時代の進歩及び男女平等思想の発展に伴い、生活、仕事、家庭、どちらから見ても、今の中国の女性の生き方はますます独立してきた。このような独立、自主、美しい女性が将来の国際社会において美しい輝きを放つことを期待している。

中国女性の生き方や考え方

中国・奈良女子大学住環境学 S.K.

中国は非常に国土が広いので、地域によっても変わってきますのでここでは現在中国社会の中で一般的な女性の生き方や考え方を紹介したいと思います。

1. 生き方について

現在中国での専業主婦とキャリア女性に関しては、仕事と家庭生活との両立をしているキャリア女性の数が圧倒的に多いと感じます。結婚してから家族のために仕事を辞める専業主婦の女性はとても少ないです。子供を出産した場合、ほとんどの女性は4か月から6か月の産休を取り仕事に戻ります。仕事の平均時間がだいたい9時間程度で、仕事と家庭生活との両立は大変なので、昼間に子育てを両親に任せるのが一般的になっています。ですから、子供が入学する前に両親と一緒に暮らすのが中国の代表的なスタイルです。

最近の中国女性生活状況調査結果によると、女性にとって最も焦慮する要因の一つは、仕事と子育てに疲れ自分の時間がまったく取れなくなったということです。自分の時間を確保するために、結婚しない女性と結婚しても子供を産まない女性がだんだんと増えてきました。一方、社会からの女性に対する仕事と子育ての両立支援も不足していると思われる。それと女性の就業環境が昔より容易となりましたが、男性と比べ年収の格差が依然として大きいからだとも言えます。

2. 考え方について

中国女性の中では、何年も教育を受けたのに仕事をせず専業主婦となるのは少し恥ずかしくて残念なことだと思われています。その背景に女性は経済面で自立できなければ、人としても自立できていないという考え方が普遍的にあるからだと思います。また、近年中国では不動産の価格をはじめ物価がどんどん高騰し、共働きしないと食べていけないのも客観的な原因となっています。

一方、中国の伝統的な考え方において、結婚できない女性は「残り女」と呼ばれます。もともと独身の生活が好きなのに、ただ単に「残り女」と言われたくないから結婚する女性も少なくないです。それに、子供を産まないと本物の女性ではないと思う人も多いです。ですから、現代の中国女性は社会からの大きなストレスに直面し、自己要求も高くなってきています。仕事では男性のような役割をしようとしているのに対し、家庭生活では昔と変わらない中国の女性に対する伝統的な考え方に束縛されています。年配女性は定年退職してからも孫の世話を一生懸命するのが当然のことになっています。結局、中国女性は一生頑張って働き続けなければなりません。

近年中国女性は国際社会の影響を受け、生き方も考え方も昔より多様になっていますが、女性が自分で人生の生き方を選択するという意識をもっと強く持つべきだと思います。中国女性が家族、会社、社会からの理解や支援の下で、自分の好きな生き方で人生を送れるようになってほしいと願います。

わたしの国の女性たち

中国 大学院人間文化総合科学研究科 博士前期課程 Y. Y.

アメリカの統計局の調査によると、中国の労働参加率は76%、世界一だということである。中国においては女性の労働参加率は70%、男性に負けない！それに対して、日本の女性の労働参加率約30%、アメリカは58%、インドは28%である。全世界の女性と比べて中国の女性は女性たち中の「戦闘機」だと思う。

労働参加率は70%、中国の女性はどんなに疲れているのか？中国では、20.3%の家庭は女性が全部の家事を負担し、41.7%の家庭は女性が半分以上の家事を負担している。男女平等に家事を負担する家庭は22.4%、男性は半分以上負担する家庭は10.4%しか占めていない。多くの家庭の理念は、家の清潔さは女性の勤勉さのシンボルだということ。欧米の多くの国家では、働きながら大半の家事を負担する女性は尊重また称賛されることに対して、中国にこれは女性の当然の状態である。

子供を育てる面では、91.1%の中国の女性は自分が半分、半分以上、更に全部の責任を持っていると思う。2012年に上海で16個の県を対象としての調査によると、母親は子供の学校や先生との連絡を負担する家庭は63%、父親は全然参加しないとは言えないが、時々参加するということである。こんなに疲れても70%以上の女性は仕事と家庭を兼ね合いたい。

2007年に、胡潤富豪ランキングには世界各国の裸一貫からたたき上げる女富豪のランキングを発表した。12カ国、88名女富豪の中、中国女性は56名、64%を占めている。

中国の女性のそんなに強くなっている原因は为什么呢？

社会、家庭の構成の客観現実により、収入のために女性は働かなければならない。

また、インド、ブラジルの女性と比べて、中国の女性たちは教育を受ける程度は高く、女性の独立意識は強い。ところが、経済の独立はあらゆる独立の基礎である。そのため、多くの女性は自分の事業を持ち、たくさん領域では男性を超えている。

一番重要な原因は彼女たちは安全感はないということだと思う。ほかの国と比べて中国の男性は離婚する時のコストはとても低い。日本の場合、離婚の時、女性は不動産財産や主人の50%の退職金をもらえる。中国女性は結婚してから、働かなく収入はなかったから彼女の幸せは主人の良心による。そのため、中国の女性は強烈な危機感や無安全感を持っている。男は頼りない。自分は努力しないと、自ら滅亡への道を歩むということ。

さらに、中国の女性の青春は短いということを感じている。25歳頃恋愛しないと、両親に催促されてしまう。28歳に彼氏がいなかったら、「売れ残りの女」と思われ、30歳の時に結婚しないと、「高齢売れ残り」と呼ばれています。一人の女性は、25歳～35歳の短い十年間の中、恋愛、結婚、子供生産、妻と母親の役に入らなければ、幸せな人生を待っていない人である。

実は、中国女性は疲れることに恐れなく、周りの人に理解されないことは一番怖いと思っている。中国女性は良い職員、良い妻、良い母、良い息子の嫁、良い娘になる必要があるだけではなく、良いコック、良い運転手、良い家政婦、良い心理カウンセリングになる必要もあるかもしれない。

中国女性たちは強い！中国女性たち、頑張りましょう！

『中国女性の生き方及び考え方』

出身：中国 奈良女子大学・文学部 羅瀟涵

今の時代における中国の女性たちの生き方と考え方について以下いくつかの面から簡潔に述べてみる。

まず、「独立精神」から考える。元々独立又は個人主義を發した源は西洋文化に遡らなければならない。しかし中国では、特に改革開放政策の推進に従い、女性的な解放運動する思想も実に漸進しつつある。この点について本文が論じたいのは、中国女性思想解放の経過が「女性」が一つの独立した個体として言わば個人主義を中心にして変化し実現する過程である。例えば現在、「自分の人生なので、自分のために生きる。」というような自我に価値を伴うことを強調する宣言はすでに中国女性の間急速に広まっている。そのような考え方を生じる契機を探るならば、中国では、近年所々で頻繁に発生した産後うつ病による母親たち、それどころか母親が生まれたばかりの赤ちゃんもを連れて自殺する事件という社会問題を挙げないといけない。産後うつ病を発症する原因は大部分が家庭からの圧力、いわゆる男尊女卑という古くさいものの見方によって引き起こされる。そして夫側の無関心も注目に値する。中国における医師の研究報告によると、年齢層の差は特に大きくないが症状はほぼ同じく、中に若い専業主婦の場合の比率が比較的に高いという。¹このような社会状況を分析すると、やはり社会地位から考えられるのではないのか。従って未婚女性たちは段々と「恐婚」したり（結婚を恐れること）、「不婚主義」したりする（結婚のことを一切考えない）ようになった。その原因で社会には「剩女」という新たな言葉が生まれてきた。つまり社会の流れによって思想が変化しつつ、ますます「余った女性」が増加する傾向が発見される。しかしこれらの女性こそは現在、独立した視点を以て、すなわち自分が女性としての地位を築く為に、まず伝統的な観念を捨てないといけない。そして自らの人生に対する明確な志向を持ち、且つ自由意志を忘れられない。それについて、物質からもたらす地味的な安心感が大勢の中国女性に認められる。言い換えれば、中国では、女性が物質化生活を急速に追求していると言ってもよい。だからこそ、今やたくさんの方が「今を生きる」、「個体経営」という生き方で頑張っている。そのような女性たちは「新しい時代に存在する魅力的な女」と言われるようになる。

それに対して、中国においてすべての女性は独立意識を持っているとは限らない。自分の若さを優勢として見て、いい生活を過ごすためにあらゆる方法を考え出す、つまりエピキュリアリズムを持つ女性の存在も無視することはできない。その原因はある文章を例にして、主に社会からのストレスに耐えられずに、苦しみから逃げたいためだと示される。²筆者の周りにも「人生があまりにも短いので、良い時期を無駄にしないで楽にしていこう」という考え方も確かに聞いたことがある。それに対してただ目の前のことしか見なく、実に歪んでいると考えたが。しかしこのような意識はやはり少数である。ただこのような現象から、実際根本的な女性面に及び、再び元に戻るといえるのではないのか。実のところ、現在の中国人女性の美意識を論じなければならぬ。「美」をますます注目していくきっかけは、まず女性自身ならでは美を愛する心はもちろん、俳優たちからの影響も大きく受けている。これについても、利点と欠点がある。利点として近年では、以前にもましてダイエットブームが流行っていて、特に「痩せることは一番である」という思想があらこちらで聞こえる。しかしそのかわりに、だんだんと「白く痩せて幼く見えることこそ、女性の目指すべき目標である」という声が多くなった。女性の美とは一体何かを考えさせるが、やはりどんな物事でも一旦バランスを崩したら、どうも病的に見えるのではないかと考えられる。

以上述べたことは主に独立する女性と享樂する女性の生き方と「美」についての考え方を、そしてその中に既婚女性と未婚女性との差異を簡単に紹介した。ただし、以上論述した内容は引用以外、すべて筆者だけの観点を示す。

1 「産後うつ病の原因と表現」、[Http://zhuanlan.zhihu.com/p/26492134](http://zhuanlan.zhihu.com/p/26492134)（参照：2020/5/25）

2 「享樂主義・女性」、<http://xuewei.cnki.net>（参照：2020/5/26）

わたしの国の女性たち

中国・奈良女子大学大学院人間文化研究科・段翠如

世の中のすべてのものが変化しているといっても過言ではないと思う。もちろん中国人女性の生き方や考え方も変化しつつある。十人十色というように、これから書くことがすべての中国人女性に当てはまるものでないことは承知している。あくまでも自分の目から見た中国人の女性のイメージとして、自分の一番身近な女性、つまりオバアサン、オカアサン、ワタシという3つの世代の女性を例に、結婚、家庭、教育3つの面から中国人女性の生き方と考え方を比較しながら述べたい。

オバアサン世代の女性は結婚ということが人生の中で一番重要なことだと考えている。女性として結婚できる年齢になったら結婚しないと、その女性は恐らく何かがあると思われる。例えば、体が弱すぎたり、ブスで結婚相手がいなかったり、私生活がよくなかったりなどと思われる恐れがある。また、一旦結婚したらめったに離婚しない。離婚すると周囲からいろいろ言われるので、幸せを感じられなくてもずっと我慢する。当時の女性は離婚を人生の恥だと考えていたと言ってもいいと思う。オカアサン世代でも結婚は女性にとってやはり重要なことである。しかし、もし結婚後、幸せを感じないなら離婚することができるようになる。ワタシ世代になると、結婚はそれほど重視されなくなる。一人でも平気に生きられる。結婚は愛し合う二人の選択であって誰かのためではない。また、離婚に対しても平気になる。他人の目や噂などはどうでもいい、それほど気にならない。むしろ、自分が幸せかどうかが一番重要なことになる。

家庭の面では、オバアサン世代では中国人女性の伝統的な家庭観念が強い。家族が優先で、その中で子供が一番大事である。当時は生活状況があまりよくないので、食べ物が足りないこともよくあった。そんな時は絶対に子供に食べさせる。現代のように生活状況がずいぶんよくなってきても、わたしのお婆さんは何か珍しいもの、美味しいものがあつたら自分は食べず必ず孫に食べさせる。つまり、エゴがあまりない。また、オカアサン世代とワタシ世代になっても家庭観念が強いということはほとんど変わっていないと思う。一番代表的なのは春節の時期に帰郷することだと思う。中国の公路網HPによると、2019年の春節の前後の40日間に、29.8億人が移動した。したがって中国人の女性の家庭観念が強いというより、むしろ中国人の家庭観念が強いと言ったほうが適切である。ただし、家庭を大事にしてはいるけれども、時代の変化とともに女性の自我がどんどん強くなっている感じがする。例えば、中国では祖父母が孫の面倒を見るのは随分前から当たり前のことである。だが、近年では、子供の面倒を親が自分で見る家族が多くなった。お年寄りがだんだん自分の生活に戻っていく。友達とダンスをしたり、旅行をしたりする女性が多くなってきた。中国の旅行アプリ『途牛』の「2018-2019 女性旅行客消費分析報告」によると、お年寄りの旅行人数が若者の人数を上回ることがわかった。これがまさにシニア女性の自己発見だと思う。

教育の面では、オバアサン世代は教育をあまり重視していない。特に女の子。女の子は早く結婚して、生活を安定させて、穏やかな一生が送れば幸せであると思うのがほとんどである。また、ほとんどの女性が仕事をもたず専業主婦である。時代が進むにつれて、教育をだんだん重視するようになった。特にワタシ世代は教育をより重視している。オバアサン世代と全然違って、いい教育を受ければいい仕事もらえるという認識があり、女の子は大学に進学したほうがいいと思う人が多くなった。大学院に進学したほうがいいと思う人も少なくない。ゆえに、専業主婦をやめ、会社に勤める女性も多くなってきた。

中国人女性のこのような変化は国家の発展と切り離せないと思う。国家の発展とともに、国民の生活も豊かになる。生活が豊かになったからこそ女性の考え方や生き方も変化してきた。わたし自身も女性としては自己を確立し、自分らしい自分になればいいなあとずっと考えている。